

- 5 青少年教育指導者等の養成及び資質向上に関する事業
- ア 青少年教育指導者等の養成・研修事業
- a 自然体験活動指導者（NEAL）養成事業

令和6年度 国立諫早青少年自然の家 教育事業
自然体験活動上級指導者（NEALインストラクター）養成事業

〔主催〕 国立諫早青少年自然の家

〔期日〕 令和7年3月4日（火）～6日（木） 2泊3日

〔活動場所〕 国立諫早青少年自然の家

〔参加者〕 NEALリーダーを取得し、かつ演習Ⅰを履修済みの方 13名（社会人10名、大学生3名）

〔担当職員〕 貞方 貴衣、西田 尚由

1) 事業の趣旨

自然体験活動指導者認定制度のもと、自然体験活動上級指導者（NEALインストラクター）の資格取得に必要な講習会（概論Ⅱ）を開催し、専門的な知識と技術をもって自然体験活動の普及や振興に貢献する指導者を養成する。

2) SDGsで目指す姿

 <p>4 質の高い教育をみんなに</p>	 <p>17 パートナリシップで目標を達成しよう</p>	<p>目標4 質の高い教育をみんなに 質の高い自然体験活動を提供できる指導者を養成する。</p> <p>目標17 パートナリシップで目標を達成しよう 参加者同士の交流を深めながら、お互いに切磋琢磨できる関係性を築く。</p>
--	---	--

3) 研修プログラム

	9:20	9:30	10:00	11:30	12:10	15:20	17:00	18:45	21:45								
3/4 (火)	9:00受付	開講式	①ガイダンスⅠ	②講義 「学校教育における体験活動」 【写真①】	昼食持参	③講義・実習 「対象者理解」 【写真②】	④講義・実習 「自然体験活動の特質」	夕べのつどい 入浴 夕食	⑤講義・実習 「自然体験活動の安全管理」 【写真③】	就寝							
3/5 (水)	8:30	⑥講義・実習 「自然体験活動の技術」 (野外炊事等) 昼食含む 【写真④】			12:00	⑦講義・実習 「自然体験活動の指導Ⅰ」	13:50	⑧講義・実習 「自然体験活動の企画運営Ⅰ」 【写真⑤】		17:00	18:45	20:10	21:30	夕べのつどい 入浴 夕食	⑨講義・実習 「自然体験活動の指導Ⅱ」	情報交換会	就寝
3/6 (木)	9:00			12:00		13:00	13:30	14:45									
	朝のつどい 朝食	⑩講義・実習 「自然体験活動の企画運営Ⅱ」 【写真⑥】			昼食	⑪ガイダンスⅡ	試験準備・履修試験	閉講式	15:00解散								

4) 事業展開

① 学校教育における体験活動



学校教育と体験活動がどのようにつながっているかについて、深く学ぶことができました。

② 対象者理解



対象者の理解を深めるために必要な知識について、お互いの意見を共有しながら学ぶことができました。

③ 自然体験活動の安全管理



自然体験活動における安全管理について、実地を交えながら学ぶことができました。夜間でのライトの使い方や、火を消すための方法、救助の方法など、様々な視点から安全管理について学びを深めた。

④ 自然体験活動の技術



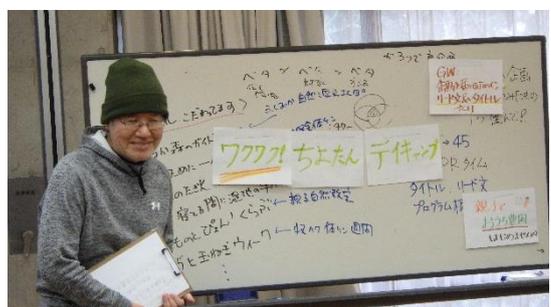
野外炊事を通して、自然体験活動の技術を学んだ。ナタの使い方や火おこしの仕方などをお互いに共有することで、参加者の知識のブラッシュアップにつながった。

⑤ 自然体験活動の企画運営 I



自然体験活動の企画を実際に考えるワークを実施しました。講師や参加者同士のアドバイスを受けたりや意見交換を行ったりしながら、自分の企画の精度を高めることができました。

⑥ 自然体験活動の企画運営 II



企画した事業についてグループでさらにブラッシュアップを図り、参加者全員で共有し、意見交換を行った。お互いの考えを聞きあうことにより、深い学びへとつながった。

5) 評価

① アンケート結果（事業全体に対する満足度）

満足	やや満足	やや不満	不満
77%	23%	0%	0%

② 参加者の声

- ・体験学習についての方法について多方面から学ぶことができたので良かったです。
- ・グループワークや実技があり、退屈しなかった。
- ・人の意見を聞く機会も多く、とても勉強になった。
- ・時間がタイト・ハードで、休憩時間が短く参加者同士で話をする時間をもっと欲しかった。

6) 成果と課題

① 成果

- ・タイトな時間ではあったものの、参加者の満足度は高く、本事業のカリキュラムを実施することができた。
- ・各講義にそれぞれの分野に長けた講師を招聘することによって、深い学びへとつなげることができた。
- ・講義や実習中、グループ編成を変更しながらワークを行ったことや、タイトな時間の中にも情報交換会の時間を設けたことにより、参加者同士の交流を深めることができた。
- ・開催時期は大学生から社会人まで参加しやすかったとの意見があった。

② 課題

- ・講義ごとに講師を招聘したが、運営者として、講義内容の把握が甘かったことが課題である。講義と講義のつながりや、講師の方への引継ぎ事項などが不十分になり、企画全体の趣旨がぶれたように感じる参加者がいた。全体のバランスや、事業自体の枠組みや意図もスタッフ間で共有し、参加者にも受け入れやすい運営にしていくことが必要だった。
- ・大量の資料が必要だった。今後、QRコードでの読み込みや事前にオンラインで共有するなどの工夫をすることも検討していく必要がある。